



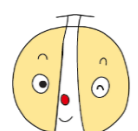
第1回教育部会（令和4年7月1日開催）

資料3

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応	担当
1	伊藤委員	<p>【帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業】</p> <p>【障害のある子どもや親の孤立防止支援事業】</p> <p>帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業のサポーターと、障がいのある子どもや親の孤立防止支援事業の専門職員は、それぞれどういう方が携わっているのか、サポーター、専門職員の専門領域やどのような要件で、何をお願いできるのでしょうか。</p>	<p>帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業では、日本に来て慣れない生活習慣等で戸惑っている児童生徒に対して寄り添う形でサポーターを配置しており、通訳の資格等を求めています。有償ボランティアとしてサポートしてもらっており、具体的な人材は学校に選んでもらい、区役所からボランティアの費用をお支払いしています。</p> <p>障がいのある子どもや親の孤立防止支援事業の専門職員は相談にのったり、支援機関につないだりするなどの業務を行っています。区役所の子育て支援担当で会計年度任用職員として採用しており、臨床心理士の資格を持っています。また、言語聴覚士による専門相談等も実施しています。</p>	当日の回答のとおり	子育て支援
2	伊藤委員	<p>【孤立する子どもへの対応策について】</p> <p>子ども同士で関わりが難しく、孤立して遊んでいる子どもが暴力的な言葉を使うのを耳にすることがあります。このような子どもたちに対して、具体的にどんなサポートをしているのでしょうか。</p>	<p>孤立する子どもへの働きかけに関しては、西成区こども生活・まなびサポート事業でのサポーターの寄り添い支援や、こども青少年局の事業であるこどもサポートネット事業で、こどもサポートネット推進員やスクールソーシャルワーカーが学校と連携して、課題のある児童生徒や家庭にアプローチを行っているところです。</p>	当日の回答のとおり	子育て支援
3	伊藤委員	<p>【西成区こども生活・学びサポート事業について】</p> <p>西成区こども生活・まなびサポート事業のサポーターは、どのような形で学校に配置されているのでしょうか。</p>	<p>西成区こども生活・まなびサポート事業につきましては、各校に一人ずつ16名、1日7時間45分のフルタイム職員が人材派遣契約で学校に配置されています。</p>	当日の回答のとおり	子育て支援
4	岡村委員	<p>【障がいのある子どもや親の孤立防止支援事業について】</p> <p>区役所と関わっていない可能性のある精神疾患や知的障がいがある子どもの全数を状況把握することとなっていますが、どのように把握するのでしょうか。</p>	<p>手帳を交付している方で、手帳交付後から現在まで区役所との関わりがない方について、アプローチをする事業となっています。窓口に来庁される時や、電話や訪問などの形で、3年間かけて全件何らかの形で支援につなげたり、実態を把握したりする事業となっています。</p>	当日の回答のとおり	子育て支援

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応	担当
5	有馬委員	【こども食堂について】 千本小学校区と南津守小学校区においてこども食堂がまだ開設されていない状況について区役所側で分析はされていますか。それ以外にも何か聞いておられることはありますか。	南津守小学校区に関しては過去に何度か開設に向けた動きがあったことは聞いており、現在も開設に向けた動きがあると聞いています。 千本小学校区では現在、具体的に開設の動きがあるということ把握しています。	当日の回答のとおり	子育て支援
6	甲斐田委員	【こども食堂について】 南津守小学校区でこども食堂開設の予定が変わったことについて、また、現在の動きについてどういう方向に進んでいますか。	以前から開設に向けての動きがあり、一度団体さんの事情で少し止まったという動きを聞いていますが、依然として開設に向けた動きはあるというように聞いています。	当日の回答のとおり	子育て支援
7	西田委員	【こども食堂・こどもの見守り支援事業について】 西成区のこども食堂では、こどもの見守り支援事業に参加しているのは何団体でしょうか。	西成区では、4団体がこどもの見守り支援事業に参加しており、うち3団体がこども食堂であると把握しています。区役所としては、こどもの見守り支援事業をこども食堂を継続していただく動機づけの一つとして活用してもらいたいので、周知にも力を入れていきたいと考えています。	当日の回答のとおり	子育て支援



第2回 教育部会（令和4年7月29日開催）

委員からのご意見

議論のテーマ「西成区の子育て環境について」

- ・公園の数は多いが、開いていない公園や遊具が揃っていないこともあり、理由も含めて実態を把握してほしい。
- ・プレーパークは校区を越えて子どもが行くことができるように、交通手段など条件を整えることも必要ではないか。
- ・プレーパークにおいて、地域の人材や企業等を活用し、子どもと保護者を呼べるような企画を行えばどうか。
- ・子どもが喜んで外に出るような遊びを企画しなければ、室内で遊ぶ子どもが公園に集うことは難しい。
- ・就学前は保育所の入所がしやすい西成区に来るが、就学時に別の行政区に進学させたい出ていく親もいる。
- ・経済的な面など、家庭の生活基盤ができていないために子どもの環境を悪くしていることもある。
- ・郊外の方が地価が安く、家を建てたい若年層は市外へ流出しており、住環境もあわせて考える必要がある。
- ・たくさん子どもが集まっている松通公園・長橋公園は、公園の門が開いていて自由に行き来ができること、異年齢の子どもたちが多いこと、大きい木があることなど、違いがある。
- ・西成区のイメージアップのために、「大阪市みどりのまちづくり条例」と絡めて子育て環境と緑や生き物との共生をうたっていくこともよいのではないか。
- ・愛知県小牧市の「こまき祖父母手帳」などを参考に、祖父母に対する支援も必要ではないか。
- ・安心して子育てできる理由として、「近所づきあい、地域活動が盛ん」という意見が多く、区の取り組みへの理解が広がっていると考えられるので、一層官民連携して進められるとよい。
- ・幼稚園や保育園の保護者同士のつながりをきっかけにその後のつながりができている。
- ・子どもの居場所といっても、就学前、小学生、中学生など世代によってやることが違う。不登校の子や、外国人の方など、対象を絞って西成の魅力を作っていくとよいのではないか。
- ・子どもの居場所について、いきいき活動や公園に限らず、長橋地区にあるような町会の建物の中で活動できる場所があってもいいのではないか。
- ・小学生（特に低学年）はいきいきに行っている子が多く、パンク状態のところもある。
- ・大事な高校受験を控え、進学を意識する中学生を対象とした居場所があってもいいのではないか。
- ・非認知能力や、子どもの個性・能力を伸ばす教育など、学力の捉え方も見直す必要がある。
- ・子どもたちには、失敗を通して成長する経験が必要。プレーパークでそのような経験ができるとよい。
- ・人間は興味を持ったものには前向きに取り組めるので、工作など、いろんなことに子どもが魅力を感じて取り組んで成長できる場所があるとよい。
- ・子どもが興味を持っているいろんなことに取り組めるような場所が必要。プレーパークがあるが、それ以外にも地域の特性を踏まえたうえで拠点が、複数あるとよい。
- ・医療の面を、安心して子育てできない理由に挙げている人は少ない。
- ・北津守小学校では、ロシアとウクライナに関わる問題などの時事問題を取り上げた授業を行っている。情報収集を行い、このような良い取り組みを発信していったらどうか。

※今回の区政会議では、委員に身近なテーマで様々なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、今後の区政の参考とさせていただきます。